

## 令和3年度教育研究業績書

氏名 礒部美也子

最終学歴	大阪教育大学大学院教育学研究科修士課程	
取得学位	教育学修士	
所属学会	日本発達心理学会、日本心理臨床学会、日本児童青年精神医学会、日本LD学会、日本コミュニケーション障害学会、日本子ども虐待防止学会、日本応用心理学会	
専門分野	発達臨床心理学	
研究課題	言語発達障害、自閉症におけるコミュニケーション支援について マカトン法適用事例の研究	
授業科目	学部担当科目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達心理学(前期)</li> <li>・福祉心理学(後期)</li> <li>・臨床心理学基礎実習(後期)</li> <li>・障害者・障害児心理学(後期)</li> <li>・心理的アセスメントⅠ(前期)</li> <li>・心理演習(カウンセリング)Ⅰ(前期)</li> <li>・臨床心理学演習Ⅰ・Ⅲ(前期)、Ⅱ・Ⅳ(後期)</li> <li>・心理実践実習(通年)</li> </ul>
	大学院修士課程 担当科目 (博士前期課程含)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校臨床心理学特論(後期)</li> <li>・発達心理学特論(前期)</li> <li>・臨床心理学特論Ⅰ(前期)</li> <li>・臨床心理学演習Ⅰ(前期)、Ⅱ(後期)</li> <li>・臨床心理基礎実習(通年)</li> <li>・心理教育特論(分担担当)</li> <li>・心理実践実習Ⅰ・Ⅱ(前・後期)</li> </ul>
	大学院博士後期課程 担当科目	
	通信教育部担当科目	・人間論Ⅱ(添削)
【研究上の特記事項】	臨床心理学は実践の学問であるため、理論と臨床をつなぐことを研究の視点として重視している。学内をはじめ、多職種連携を強め、福祉や教育現場での臨床実践を重視して実証的な研究をすすめたい。	
【教育上の特記事項】	授業においては心理臨床の地域支援活動等の経験から、臨床現場の実状・実践の具体的内容について取り入れ、できるだけ身近な問題と関連させるようにしている。令和3年度より始まった学部生の心理実習については、初年度であることもあり、特にその事前・事中・事後の教育に力を入れた。また、土曜夜に大学院生及び修了生に対して、臨床実践支援のため、ケースカンファレンスを定期的実施したり、公認心理師国家資格受験のための勉強会に参加して、修了生のフォローを行っている。課外教育としては、地域臨床実践研究会の運営にかかわり、ボランティア活動や施設見学を通して社会的状況を理解する機会を学生に提供している(今年度はコロナ禍のため休会)。	

<p>【社会的活動】</p>	<p>日本マカトン協会REP(公認講師)  滋賀県特別支援教育支援委員  長浜市就学指導委員  長浜市就学前特別支援検討委員  滋賀県臨床心理士会理事  臨床発達心理士滋賀支部役員  滋賀県子ども若者審議会児童養護施設等の子どもの権利擁護部会委員長  近江学園第三者評価委員  児童養護施設苦情解決委員会第三者委員  児童発達支援センター苦情解決委員会第三者委員  障がい児通園施設スーパーバイザー  滋賀県スクールカウンセラー  児童養護施設心理セラピスト  特別支援教育巡回相談員 等  &lt; 講師等 &gt;  *「ことばの発達と指導」 滋賀県総合教育センター主催研修会  *「マカトン法ワークショップ」 日本マカトン協会主催  *発達支援のための事例検討研修会 近江八幡市子ども健康部幼児課主催 等</p>
<p>【学内活動】  (学内職歴を含む)</p>	<p>臨床心理クリニック所長、  心理学科主任、 自己点検・自己評価委員  地域臨床実践研究会主担、</p>

研究業績[著書、学術論文等]				
著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
①				
②				
③				
(学術論文)				
①				
②				
③				
(学会発表)				
①				
②				
③				
(その他) 事例論文コメント				
①「過食嘔吐がやめられない30代女性との面接過程」藤枝論文を読んで	単	令和3年12月	奈良大学臨床心理クリニック紀要第13号	過食嘔吐がやめられないことを主訴として、研修生が約2年半担当していた事例に対するコメントをおこなった。主にクライアントとセラピストとの関係、および感情を扱うことについて記述した。
②「人との関係に問題をもつ子どもたち～脳損傷の子どもの発達——凸凹な発達」三田村論文コメント	単	令和3年7月	発達 第167号 ミネルヴァ書房	「ことばの遅れ」を主訴とした、出生時に脳損傷が認められた5歳男児の継続指導に対して、主にプレイセラピーの発達における意味についてコメントをした。
③				